

**2022年3月期第3四半期 決算説明会での主な質疑応答の内容**  
(2022年1月31日開催)

\*2021年3月期：前期、2022年3月期：今期、2023年3月期：来期  
第1四半期：1Q、第2四半期：2Q、第3四半期：3Q、第4四半期：4Q

**1. 今期の業績**

Q：今期3Qの業績は、想定に対して上振れたのか。

A：各セグメントで均等に想定を上回った結果、全体でも上振れた。

「コアコンポーネント」では、半導体関連の事業が大きく伸びた。

「電子部品」は、高容量のコンデンサや水晶部品、KYOCERA AVX Components Corporation (以下、KAVX) の車載関連が堅調だった。

「ソリューション」では、前期に落ち込みの大きかったコピー機などが想定を上回って回復した。

Q：主要な部品の足元の稼働状況を教えてほしい。

A：「コアコンポーネント」の半導体製造装置用ファインセラミック部品や、有機・セラミックパッケージの稼働率は、ほぼ100%。車載用部品は、一部のお客様で生産調整があるため少し余裕があるが、産業機械用部品はほぼフル稼働の状況。

「電子部品」は、MLCCや小型の水晶振動子はフル稼働に近い状況。

「ソリューション」は、半導体調達難の影響を受けながらの生産となっている。

Q：例年、京セラは4Qに利益が高くなる傾向があるが、なぜ通期業績予想を修正しなかったのか。減価償却費等のコスト増により、今期4Qの利益は例年に比べ低下するのか。

A：新型コロナウイルス感染症や物流の混乱等が拡大しなければ、今期4Qの売上が想定通り上がり、利益も増加するものと見込んでいる。

Q：今後の市況見通しについて教えてほしい。

A：携帯電話向け電子部品の4Qの需要は、例年、3Q比で減少するが、今期は例年ほどは減少しないだろう。半導体関連市場向けでは、半導体製造装置用部品や各種パッケージなどがさらなる増産を要求されている。

## **2. 来期の業績**

Q：来期の1Q、2Qの市況感について教えてほしい。引き続き好調に推移すると予想しているか。それとも不透明感が強まっているのか。

A：半導体関連市場はしばらく好調に推移するものと予想している。一方、コピー機や携帯電話事業などは、現在も部材調達が逼迫しているので、これ以上悪化しないことを願っている。

Q：来期も生産能力を手広く拡大しなければならない状況にあるか。

A：そうだ。鹿児島国分工場に建設する半導体製造装置用部品の新棟は、着工直前。京都綾部工場ですべて使用していなかった1棟も、来期から有機基板用にほぼフル稼働となる予定。ベトナム工場でもセラミックパッケージ用の新棟を建設する。これら以外にも投資が必要であり、これまで経験していないような状況にあると認識している。

## **3. コアコンポーネントセグメントの状況**

Q：今期3Qを2Qと比較すると、売上は増加している一方、利益が増加していない。この理由を教えてほしい。

A：主に、スマートフォン用CMOSパッケージへの設備投資による減価償却費の増加など、コスト増の影響。有機基板等へも投資を行うので、しばらくは利益があまり伸びない状況が続くと考えている。

Q：「半導体関連部品」の今期3Qの受注が2Qと比較して減少した理由を教えてほしい。

A：例年通り、スマートフォン用パッケージの受注のピークは2Q。2Qの水準が高かったため、3Qは減少している。それ以外の部品はフル生産が続いており、2Qに対して3Q、4Qと減少していくイメージはない。4Qもフル生産を予定している。

## **4. 電子部品セグメントの状況**

Q：2Qと3Qを比較すると、売上は横這いである一方、利益は減少している。特殊要因があるのか。

A：利益が減少した理由のひとつとして、KAVXとの統合に伴い、使用が見込まれない商標権を約3億円ほど一括償却したことが挙げられる。

Q：電子部品業界全体として、2Qまでは在庫を積み増す動きがあったが、3Q以降も同様の傾向が続いているか。

A：業界全体で在庫は不足気味と言われており、受注は現在も強含みの状況と認識している。

Q : KAVX のタイ新工場の活用について教えてほしい。用途拡大も含めてタンタルコンデンサを伸ばす考えなのか。MLCC の今後の増産のために活用することも考えられるか。

A : KAVX のタイ新工場は、2021 年 12 月に完成した。まずは比較的シェアが低い SSD 向けをターゲットにタンタルコンデンサを増産する予定。MLCC については、京セラ(株)の電子部品事業は日本でしか生産していないので、日本の生産技術や設備を KAVX のタイ工場に導入し、生産する構想を持っている。KAVX のタイ新工場は、タンタルコンデンサや MLCC の主要拠点のひとつとなっていくだろう。

## **5. ソリューションセグメントの状況**

Q : クレイ型蓄電池の量産と立ち上げの状況について教えてほしい。

A : クレイ型蓄電池の生産は、滋賀野洲工場にて京セラ初のスマートファクトリーとして立ち上げた。歩留まり改善など引き続き行っているが、ほぼ自動で生産している。現在は家庭向け蓄電池を生産しており、来期にはフル生産になる見通し。

Q : 車載向け蓄電池にも参入するとの報道があったが、今後の見通しについて教えてほしい。

A : クレイ型蓄電池は、マサチューセッツ工科大学より誕生した 24M 社の技術を用いて生産しているが、車載向け蓄電池の量産を決めたという事実はない。

Q : 「ドキュメントソリューション」や「コミュニケーション」は、今期は半導体などの部品調達に苦労していると思うが、来期は利益面でどのように改善していくのか。

A : 半導体の調達難はしばらく続くと思われる。加えて「ドキュメントソリューション」は、ペーパーレス化が進展している。そのため、同事業では、オフィス用から産業用へ事業領域を拡大していく。来期にはインクジェットの捺染用プリンターの販売を計画しており、今後は産業用に重きを置いていく。「コミュニケーション」の通信機器事業についても、5G ミリ波バックホールシステムといった 5G 基地局関連事業など、今後は BtoB へ重点的に取り組んでいく。

## **6. 経営全般について**

Q : 横串を刺す経営を強化されている印象がある。その成果として、何か手ごたえを感じている事例があれば教えてほしい。

A : 「コアコンポーネント」のセラミックパッケージやファインセラミック部品、自動車部品事業は、似たようなセラミック技術で展開しているので、それぞれの部門のエンジニアが合同で重要事項の解決にあたるといった事例が出始めている。

「電子部品」では、今期下期から京セラ電子部品事業と KAVX の欧米の営業体制を一本化した。アジアについては来期より一本化する予定。その後、開発体制も一本化していく。

「ソリューション」は、みなとみらいリサーチセンターを中心に、様々な事業やグループ会社の人材が集まり、取り組みを進めている。

Q：これらの取り組みの成果は、来期の業績に貢献するか。

A：例えば「ソリューション」のインクジェット捺染機は、京セラ(株)のプリンティングデバイス事業と京セラドキュメントソリューションズ(株)が共同で開発し、実現した。また、工場内で使うローカル 5G システムは、通信機器事業や研究開発部門のエンジニアに加え、IoT を担当している部門や京セラコミュニケーションシステム(株)の子会社で、AI 関連の事業を手掛けている Rist 社が共同で実証実験を行っている。こういったものの成果が来期以降から見えてくるだろう。

#### **将来事象に関する注意事項**

当資料には、将来の事象についての 2022 年 3 月期第 3 四半期決算説明会開催日（2022 年 1 月 31 日開催）時点における当社グループの期待、見積り及び予測に基づく記述が含まれています。これらの将来の事象についての記述には、既知及び未知のリスク、不確実な要因並びにその他の要因が内包されており、当社グループの将来における実際の財政状態及び活動状況が、当該将来の事象についての記述によって明示または黙示されているところと大きく異なる場合があります。詳細は、当社ホームページに掲載の「将来の見通しに関する記述等について」をご参照ください。（<https://www.kyocera.co.jp/ir/disclaimer.html>）